

## ◎むさしのヒューマン・ネットワークセンターの拡充へ

「わたしが女性であるか、それとも男性であるかということよりも、わたしが誰なのか——それが大切だと思う」——第3回定例会一般質問

少子高齢化が進む武蔵野市でも、ひとりひとりが安心して暮らせるための相談拠点——それが「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」です。

これまで「市民の身近な生活問題を相談できる窓口」としての機能が低かったため、センターに「相談専門員」を配置し、「市民ひとりひとりの身近な駆け込み寺」として拡充することを要望しました。市からは、早急に検討するとの回答を得ました。

が、市民の財産と安全と環境を守る行政体の責任として「都市計画線を廃止する」ための具体的な条件提示を含む明確な意志表示をすること。またあわせて、廃止の可能性を秘めた「代替機能の確保」についての、明確な定義づけとその可能性について都と協議するよう、市に強く要望していきます。

「外環」については、その整備に向けての検討がここまで来てしまったからには、夢想や理想や希望だけではなく、政治・行政・自治体のシビアな現実を目を向けて行かなければなりません。

だからこそ、私は皆さまに寄り添って、より現実的な対応と対策に心血を注いでまいります。

これまで以上にしっかりと背中を押して支えてください。どうぞよろしくお願ひいたします。

## ◎外環道路

平成13年1月、武蔵野市の外環道路計画線を視察した扇千景・国土交通省大臣は言いました。

「みなさん、もう大丈夫ですよ。外環は地下になりましたからね」——もう地上に道路が作られることはない、と誰もが思いました。

ところがどっこい！この発言で国道たる「外環は地下に潜る」ことにはなりましたが、東京都である「外環ノ2」の都市計画路線はそのまま残っているんです！

1月19日、国土交通省関東地方整備局ならびに東京都都市整備局から「東京外かく環状道路(関越道～東名高速間)対応の方針(素案)」が示されました。本線地下工事による地下水・大気・生態系への影響、事故時・工事時の安全については、検討会の議論を十分に反映させたとは、とてもいえない内容です。

また「外環ノ2」については、別の場での議論が提示されています。

しかし、その前提として大事なことは、武蔵野市自身

●平成21年第1回定例会一般質問は「災害時の高齢者・障害(児)者・難病者・妊産婦のための福祉避難所の整備体制等」について質問をする予定です。

## 【 深 田 貴 美 子 の 活 動 報 告 】

◎9月 3日 本会議開会、一般質問	17日 南町コミセン文化祭	9日 青空市、武蔵野東学園文化祭
4日 一般質問	18日 障害者福祉センター文化祭、ヒューマン・ネットワークセンター連続講座②開催	10日 常任委員会(～17日)
9日 常任委員会(～12日)	19日 東部まちづくり協議会元氣市	14日 障害児デイケア「ハッピー吉祥寺」視察
16日 外環道路特別委員会	20日 ヒューマン・ネットワークセンター研修@アートフォーラムあざみ野	15日 本宿小学芸会
18日 決算委員会(～25日)	21日 地方自治推進フェア@お台場	16日 第2回外環地域PI
20日 東部防災フェスティバル	25日 シルバー人材センター文化祭、ヒューマン・ネットワークセンター連続講座③開催	19日 外環道路特別委員会
22日 特別支援教育計画策定委員会傍聴	26日 三中くぬぎ祭、九浦フリーマーケット	22日 教育フォーラム
27日 一中・二中・三中・四中・五小運動会、社会教育を考える会、外環反対の会	28日 青少年問題協議会定例会	26日 港区立高輪台小、神応小学校視察
30日 本会議閉会	29日 南町防災ネットワーク視察@ゆとりえ	29日 芸術文化協会周年行事
	31日 全国自治体シンポジウム「地方自治と子ども施策」	30日 市内清掃クリーンデー、NPO「本を読もうの会」講演会
◎10月 1日 認知症サポーター講習会受講		◎12月 2日 教育委員会傍聴
3日 青少協常任委員会		3日 本会議開会、一般質問(～9日)
4日 四小・本宿小運動会、ヒューマン・ネットワークセンター連続講座④開催	◎11月 1日 四中祭、一小研究授業、社会福祉法人「おおぞら会」周年行事	9日 常任委員会(～12日)
5日 第1回外環地域PI	4日 議会運営委員会	15日 外環道路特別委員会
6日 個人情報保護法説明会@都庁	5日 本宿研究授業参観	16日 介護保険市民の会
8日 文教委員会視察(～10日)@岡崎市、堺市、豊岡市	6日 道路大会	18日 第3回外環地域PI
13日 全国おもちゃ図書館協議会設立者小林つ子氏訪問	8日 本町・本宿コミセン文化祭、防災体験@自宅マンション、0123祭り	21日 自治のあり方シンポジウム
15日 全国市議会議長会フォーラム@釧路(～16日)		23日 東京発達と教育研究会、調布市市民プラザあくろす視察

武蔵野市議会議員◎深田貴美子

フカキミの

9

ご意見、ご要望を聞かせてください！  
メール ☞ ippo-ippo@fukakimi.net  
または電話 090-8025-4457 まで

2009年2月10日◎通巻第9号  
発行◎深田貴美子といっぽいっぽの会

# 《いっぽいっぽ通信》



年末から年始にかけ、新しい年に一段と厳しさを増した経済不況のなか、私たちの生活はもちろんのこと、市政への影響も深刻な状況です。だからこそ、一人ひとりの私たち市民の生活に寄り添い、支える“拠り所”としての市政運営が求められています。これからも、おひとりおひとりの声を聞かせていただき、みなさんと共に築き、子どもたちに手渡せる「武蔵野」であるために、ゆるぎない信念をもって活動を続けてまいります。今年度、文教委員会副委員長として「人づくり武蔵野」の総集編のご報告を、ここにお送りいたします。——深田貴美子

## ◎デジタル機器で、子どもたちの好奇心をくすぐろう！

——第4回定例会一般質問

平成23年7月24日の「地上デジタル放送」完全移行に向け、文部科学省は学校の教室にデジタルテレビ機器を導入し、高画質・高音質の視聴覚教育+情報化教育を実現しようとしています。これによって授業の質の向上が期待できることから、武蔵野市の教育現場へのデジタルテレビ機器導入の方向性をうかがい、前向きに検討するとの回答を得ました。また難視聴・受信障害地域の対策、高齢者・障害者の方々への相談窓口、悪質商法防止の周知徹底を要望し、市では「消費生活センター」を窓口として対応するとの回答を得て、2009年1月1日付の市報にも告知されました。(専用窓口 ☎0422-21-2971)

ご確認ください！

◎定期給付金の給付を誤った詐欺  
定期給付金のことはまだ何も決まっていません。給付について、市区町村・総務省職員などがATM(銀行・コンビニなどの現金自動預払機)の操作をお願いすることや手数料などの振り込みを求めるとは絶対にありません。十分に注意してください。☎安全対策課 60-1936

◎地上デジタルテレビ放送(地デジ)便乗の勧誘  
平成23(2011)年7月24日までに現在のアナログテレビ放送は終了し、デジタル放送に完全に移行します。地デジへの対応に便乗し、役所やテレビ局、工事業者などを名乗って不当な請求をしたり、不安をおおって契約をとりつけるなどの事例が発生しています。突然の電話や訪問を受け、内容などがよく分からないときや、そのまま契約してしまった場合は、消費生活センター(相談専用電話 21-2971)へご相談ください。☎問センター 21-2972

## ◎港区立神応小学校、高輪台小学校視察

デジタルテレビ機器で生きた視聴覚教育を



平成20年11月26日、地上デジタル放送開始を踏まえて文部科学省が進める「地上デジタルテレビ放送の教育活用」のモデル事業校である2校をお訪ねし、インターネットやデジタル教材を活用した「視聴覚教育」の効果と課題について視察してきました。

モデル事業校では、デジタルテレビによる高画質・高音質の映像で、子どもたちの前向きな学習意欲や感受性、確かな理解や学ぶ喜びが高まったとうかがいました。拝見したクラスでも、子どもたちの発言や挙手が極めて多く、授業の質の向上が図られていました。

## ◎周知！学習指導要領改訂

——第3回定例会一般質問

平成20年3月の学習指導要領改訂で、この4月から小学校1、2年生で週2時間、3～6年生では週1時間、中学校では各学年で週1時間、授業時数が増加します。なにかと忙しい子どもたちの、放課後の過ごし方にも影響があることから、保護者や、子どもたちを見守ってくださる地域の方々への「丁寧な周知」の徹底を求めました。

また改訂で求められている「算数・数学および理科」での知識・技能の習得や実験・観察の充実のために、市立小中学校への「理科支援員の配置」と「各学校の理科室・備品の整備」を強く求めました。

## ◎特別支援教育計画策定

地域みんなで支えよう

1月21～22日の両日、独立行政法人「国立特別支援教育総合研究所」主催のセミナーに参加しました。セミナーでは、先進的な取り組みを行う全国の小中学校で、普通教室に通う「支援が必要な子ども」への「個別の指導計画の立て方」や、ニーズに応じた自立教育活動について、また特別支援学校（かつての養護学校）が地域の特別支援教育のセンターとして、どのように地域の小中学校とネットワークを作っていくのかについて、事例とともに発表されていました。武蔵野市では「特別支援教育計画策定委員会」が設置され「中間まとめ」が2008年12月に発表されています。（<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/sisaku/00/01/00/00010007.html>）

大切なことは、支援が必要な子どもの早期発見や能力開発に終始するのではなく、支援が必要な子どもたちが「地域の一員として」地域や学校に包まれて、地域の子とたちと「ともに育ちあう」ことではないでしょうか。

## ◎子どもの安全を裏切らない

平成21、22年の前倒しで学校耐震改修工事8校実施を！  
——第2回定例会一般質問

平成20年5月の中国四川省大地震では、6898棟の校舎が倒壊し、多くの子どもたちが犠牲になりました。武蔵野市では、昭和56年の新建築基準法に基づいて改修されたはずの公立小中学校8校13棟が、耐震基準0.6を満たしていないことが明らかになりました。平成20年度から3カ年の改修計画を、1カ年前倒しで完了することを要望し、平成21年度中に8校13棟すべてを改修するとの回答を得ました。

## ◎松江市・出雲市視察にて

松江市が実現した「幼稚園における支援体制と、個別の教育支援計画」

平成20年7月23、24日の両日、島根県松江市と出雲市を訪ねました。

幼稚園・保育園と小学校の連携が課題とされるなか、松江市では平成15年からの5年間で、全国の小中学校で取り組まれている特別支援教育の体制づくりを、幼稚園（市立26園、国立1園、合計27園）から実現しました。支援ファイル『だんだん』の整備など、乳幼児からの一貫した支援体制をつくることによって、就学・進学前からの子どもの教育的ニーズや保護者の願いを把握し、就学・進学と同時に教育的支援をスタートさせることを可能にしています。武蔵野市においては、いまだ「支援ファイル」が作成されていません。早急に取り組むよう要望していききたいと思います。

子どもたちの夢を育てたい——  
教育センター機能を備えた  
「出雲科学館」



平成14年に開館した「出雲科学館」は、島根大学の曾我部国久名誉教授を中心にした運営で、「実験教室」や「ものづくり教室（木工室）」を備えた「総合的な教育センター」として、子どもから大人まで楽しめる、まさに生涯学習の場。総工費42億7100万円、年間運営費1億3500万円（一部人件費を除く）という大規模な事業は、計画当初には市議会の反対もありましたが、市民ボランティアに支えられて、子どもたちの夢を育て、子どもたちの不思議心をくすぐる実践の場になっていました。

『子どもの急病！ガイドブック』は現在第3版。アンケートで97%が「役に立つ」と評価した気配りのコンテンツに学びたい。岡崎市のウェブサイトからダウンロードもできるので、ぜひ一読を。☞ <http://www.city.okazaki.aichi.jp/>



## ◎文教委員会視察

岡崎市の小児救急医療体制に学ぶ

すぐ救急病院？ それとも明日まで待つ？——夜間や休日のたび、子どもの急病に何度迷ったことでしょうか。この夜間小児救急の問題に、市医師会や県内大学病院、関係機関の連携で取り組む愛知県岡崎市を訪ねました。

岡崎市では平成16年に一次救急から三次救急までの体制づくり、共働きの多い子育て世代をバックアップしています。また子育て中の親たちと医師会との協働で制作された、岡崎市保健所発行の『子どもの急病！ガイドブック』には、小児科医不足の問題と、それに対する医療現場の努力を踏まえて、市民と医師・病院との信頼の輪が綴られていました。

ひとり子どもでも病気であれば、助けるのが医者使命——とのお話に、深く感銘を受けました。

大阪府堺市「百舌鳥特別支援学校」  
および「大阪府作業療法士会」視察

この支援学校では全国に先駆け、昭和32年から病弱・身体虚弱及び知的障害児童生徒を対象に「人として生きぬく力を育てる」を教育目標に掲げた障害児教育に取り組んできました。「自立生活や就労につながる作業スキルの発達と援助」という観点から、大阪府作業療法士会との連携で、生徒一人一人の「困り感」の理解と支援に丁寧に取り組まれています。はさみや鉛筆、三角定規などがうまく使えない子には持ちやすい道具の工夫を、椅子に正しい姿勢で座ってられない子には滑り止めのクッションを、聴覚過敏の子にはヘッドフォンを——など、さまざまな支援の工夫が導入されていました。

## ◎“教育センター”の設置へ

——第3回定例会一般質問

武蔵野市には先生方が研修・研鑽するためのセンターがなく、勉強会のために市役所の空き会議室を探しているのが現状です。新学習指導要領は「理科実験学習の充実」「武道の必修化」「すべての教科におけるICT情報化の活用」を求めており、武蔵野の教育を担う先生方の研修の場が、早急に設置されなければなりません。また「いじめ」や「不登校」など、学校に行きたくても行けない子どもたちや、その保護者の相談窓口である「教育支援センター」は、実は行きたくても行けない「学校の中」に……。研修と相談の場をまとめ、武蔵野の教育をさらに向上させるため、「教育センター」の設置はいまや急務なのです。

つまり、山積している教育諸問題に対する有効な方法論の筆頭が私の指摘した、この“センター”案なのです。

いちどは遊びたい出雲科学館の中でも、子どもたちに人気の高いプラネタリウム。☞ <http://www.izumo.ed.jp/kagaku/>



## ◎先生を子どもたちに返そう！

教員1人1台のパソコン整備で校務負担の軽減を  
——第1回定例会一般質問

新学習指導要領は「児童がコンピューターなどの基本操作や情報モラルを身につけ、適切に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る」ことを目指しています。東京都でも平成21年度までに、都立高校の教員全員に「1人1台のパソコン」配備を進め、電子黒板・プロジェクター、教室全員が使用できる台数のタブレットパソコンを導入することから、「武蔵野の親心」として、市立小中学校へのICT整備・情報化教育の導入を強く求めました。